

作業用手袋認定マークについて



Cat.1 or Cat.2

標準規格適合品とは

消費者の健康保護と安全性を保証するための基本
要求事項に適合している
ことを自己認証し、かつ
情報公開していること
です。

1. 認定マークを新しく制定いたしました。

この度日本グローブ工業会、作業用手袋認定マーク事務局では、作業用手袋認定基準を策定し、作業用手袋の一般要求事項であるサイズ、寸法、無害性および器用さを取り入れ、認定マークを新しく制定しました。特に Cat.2 の一般作業用手袋では、機械的強度（耐摩耗性試験、耐切創性試験、耐引裂性試験、耐突刺性試験）の基準がその手袋の性能を表す重要な指標となっています。

その試験を第三者の試験機関（外部試験機関）で実施し、手袋の性能として明確化しました。これらの試験結果をもとに適合品のみ認定マークを表示します。

2. 安全性における品質基準を明確化しました。

作業用手袋の機械的性能試験では、

- ・国際規格（ISO 12947-1:1998、ISO 13997:1999、ISO 13937-2:2000、ISO 13996:1999）
- ・日本工業規格（JIS L 1096:2010、JIS T 8052:2005、JIS T 8051:2005、JIS T 8116:2005）
- ・EN規格（EN388:2003）

作業用手袋の一般要件では、

- ・国際規格（ISO4045:1977）
- ・日本工業規格（JIS Z 8802:1984）
- ・EN規格（EN420:2003、EN1413:1998）

を検討し、日本グローブ工業会標準試験方法（JRV-017 作業用手袋の機械的性能試験方法、JRV-018 作業用手袋の一般要件）を制定しました。そして、手袋の種類として消費者が遭遇する危険度を、Cat.1（カテゴリー1）、Cat.2（カテゴリー2）として区分し、作業用手袋認定マークの運用規定を改定しました。

Cat.1 保護目的の危険度が明らかに低いことを使用者自身が判断でき、また作業員の身体に危険が及ばないと製造者がみなした手袋。

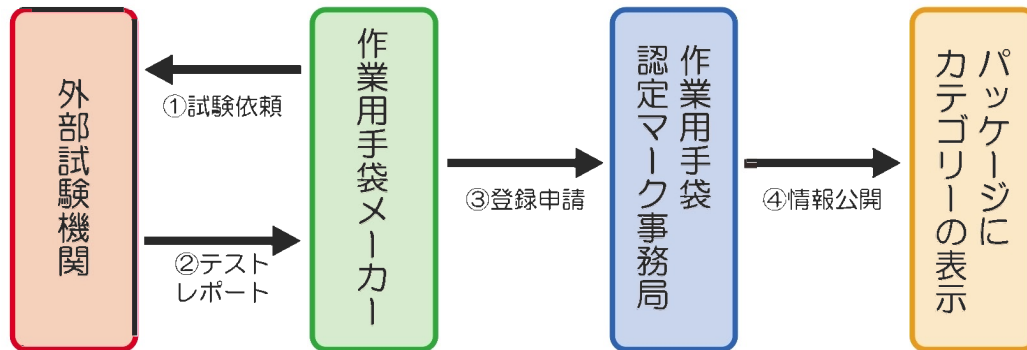
【例】すべり止め手袋（ゴム）、すべり止め手袋（ビニル）

Cat.2 物理的な性能を付与された、中程度の危険が想定され主に機械的な強度試験（耐摩耗性試験、耐切創性試験、耐突刺性試験、耐引裂性試験）において作業員の安全を確保できるレベルを想定した手袋。

【例】作業用ゴム手袋（裏布付き）、作業用ビニル手袋（裏布付き）

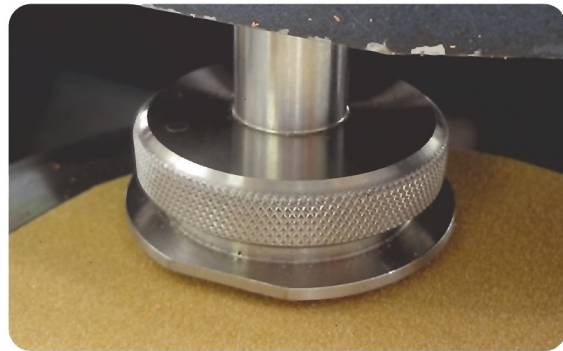
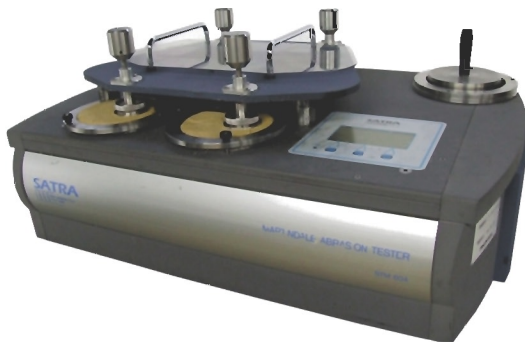
3. 第三者の試験機関で十分なテストが実施されています。

作業用手袋認定マークを表示する製品は、認定マーク事務局へ自主登録しています。外部試験機関で性能評価を実施した結果をもとに、自主登録申請書を作成しています。



① 耐摩耗性試験（Abrasion Test）

試験片は手袋掌部から切り取り、一定の圧力下で周期的な平面運動をさせ、試験片が貫通するまでの回数を測定する。



② 耐切創性試験（Coup Test）

【A方法（使用試験器：TDM-100 試験規格：JIS T 8052:2005）】

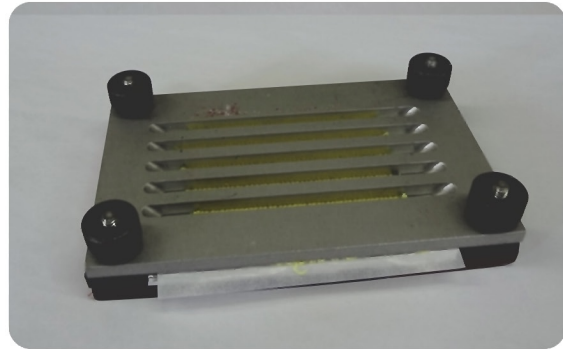
試験用刃物に種々の大きさの力を加えて、30～50mm動かして試験片を切断する。20mm長のストロークをカットするのに必要とされる切創力として表す。



② 耐切創性試験 (Coup Test)

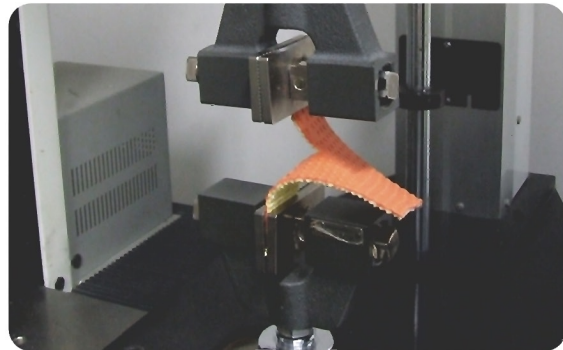
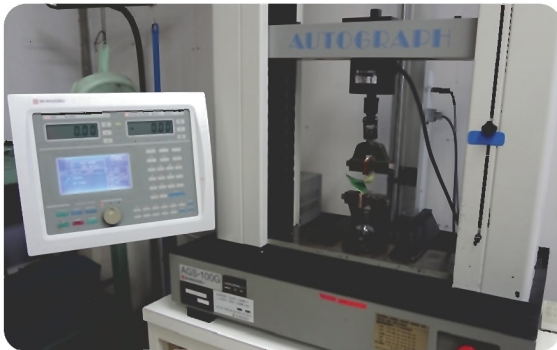
【B方法 (使用試験器: Sodemat 試験規格: EN388:2003)】

5 Nの加重の下で往復運動する円形の刃で、手袋掌部から切り取った試験片を水平運動させてカットしていく。厚地の TENT 地を同様にテストして出た数値と比較して指標とする。



③ 耐引裂性試験 (Tearing Test)

手袋から長方形の試験片を切り取り、その試験片の半分まで裂け目を入れる。そしてその試験片の両端を持って、引き裂く時の力を測定する。



④ 耐突刺性試験 (Puncture Test)

定義された寸法の鉄鋼針によって、手袋の掌部から切り取られた試験片に穴をあけるために必要な力を測定する。

